

3) 総体予選、県選手権、県体（1月、たいらスキー場）

年明けの県内レースがインターハイと同じ会場だったので選手個人の滑りのみならず、コース戦略も含めた重要なデータを得ることができた。



図9 GSライン取りの比較

図9はGSのライン取りを比較したものである。S選手はターン弧が深く常に高い位置から次の旗門に入っており、M選手（インターハイ優勝）はより直線的に次の旗門に入っているのがわかる。ターン弧を深く取り高い位置から次の旗門に入っていくのは競技スキーの鉄則であるが、ある程度リスクを冒して直線的に旗門に入らないと速いタイムは望めない。この図から明らかなように、タイムの速いM選手の方がS選手より次の旗門に近い位置にいるのである。別の見方をすれば、M選手はより直線的に旗門に入ってもターンでスキーがずれない技術レベルにあると考えられる。次に図10～12は急斜面の滑りを比較したものである。



図10 急斜面の入り口